

第8回 教育委員会 会議録

- 1 開催日時 令和8年8月21日（金）午前9時50分
- 2 開催場所 大町市役所 庁議室
- 3 出席委員
教 育 長 中 村 一 郎
同 職 務 代 理 者 下 川 清 志
委 員 北 澤 明 美
委 員 奥 原 圭 永
委 員 小 田 美 恵
- 4 説明のため出席した者
教 育 次 長 飯 島 秀 美
教 育 参 事 坂 井 征 洋
兼山岳博物館館長
学 校 教 育 課 長 渡 邊 哲 也
生 涯 学 習 課 長 本 堂 勝 也
ス ポ ー ツ 課 長 降 簾 渉
国スポ・全障スポ推進室長 —
学 校 教 育 指 導 主 事 吉 澤 清
学 校 教 育 指 導 主 事 山 岸 澄 雄
- 5 事務局
学校教育課庶務係長 西 澤 喜 吉
学校教育課学校教育 北 沢 直 樹
係長
- 6 傍聴者 一 名

中村教育長：おはようございます。

お盆は過ぎたんですが、まだまだ暑い日が続いておりますが、でも着実に秋は深まってきているなということを感じます。

今日出席予定の職務代理ですが、別の会議の方に参加してしまして、ちょっと遅れてお見えになります。吉澤主事の方は、今保護者との対応ということで、対応が終わり次第こちらの方に来るという形になりますので、一応全員お揃いですので、第8回教育委員会を始めたいと思います。

議事録の承認に関しましては、先ほどそれぞれ皆さんに確認をしていただきました。

あと職務代理の方が来たところで、確認をいただくような形にしたいと思いますので、お願いいたします。

本日、議事の方がいくつか予算に関わる内容になりますが、よろしく願いいたします。

それでは最初に教育長報告ということでお願いいたします。

教育長報告 資料により説明

中村教育長：何かこの内容についてご質問等ありますか。

北澤教育委員：19日の教育研究集会ですが、市内の保育園の園長がみんな、今年は参加するという話を聞いたので。やっぱり保育園から小学校への繋ぎのこともあるし、と園長先生が話をしていたので、どんな内容だったかお伺いできればと思います。

中村教育長：私もたまたま、幼保小の連携の分科会の方に参加させていただきました。

今年、会染小学校の三原先生が実践発表という形でされています。

池田町は、幼保小の連携が、いち早く進めているところがあって、会染小と保育園の繋がりということで、小学校の方で、こういうことに配慮しながら、いろんなことを実践していますよっていう発表だったかというふうに思います。

そこには市内の園長先生、全員多分参加していたのではないかなというふうに思います。

自分の方では話を聞いていて、それぞれの学校で、上がってきた子供たちが学校にどういうふうに適応していくかまたそれぞれの子供たちのそれぞれの発達の特性があるので、それにどういうふうに配慮した形でいろいろ工夫してるかっていう、内容が多かったんですけど、自分がもっと知りたかったのは、やはり保育園、幼稚園と、小学校のその橋渡しの部分をどんなふうに考えて、学校側としては取り組んでいるのかっていうところの部分が知りたかったんですけど。

参考になったのは、やはり保育園と小学校がとても緊密に連絡を取り合っているということが話の中でもありました。

それともう 1 つが保育園の生活をそのまま小学校へつなぐっていう、そんな取り組みがされていて、要は、今、ほとんど大町市の小学校は、1 年生は 1 週間ぐらい、半日以下、もしくは給食なしで早く帰ってるかなと思うんですけど、ここの会染小学校では、保育園の方では、子供たちは 3 月まで、普通に給食を食べて、2 時 3 時までいる、そういう生活をしているので、小学校でもいきなり、入学式終わった次の日から給食をスタートさせて、1 日の生活を子供たちも送っていく。

要は小学校の都合に合わせるのではなくて、保育園の生活をそのまんま、学校の方に延長していくっていうそういう考え方でやっているかなと思います。

それで成果としてはこうすることで、要は 5 月の連休明け以降、子供たちの生活がとても安定してくるというようなそんなお話がありました。

こんなふうにいろいろ、小学校と保育園、幼稚園の先生方で、やっぱり情報共有をしながら、子供たちの成長をどういうふうに繋いでいくかっていうところを、やはりいろいろ意見交換していくことが大事かなと思います。

あとはそれぞれの学校でのいろんな工夫は、先生方が、やっていけばいいことだと思います。この三原先生なんかも例えば合図は、声もあるんですけど笛なんかでやると子供がびっくりするから、アヒルの声の笛とか、そんなのを使うとか。

すぐ子供たちは動きやすくなってしまうので、椅子にはバランスシートっていうんですか、それを引いて、やることで、子供たちが落ち着いていられるとか、そんな本当にいろんな工夫をされていたかなと思います。

先生方の議論とか討議の部分はちょっと見られなかったんですね。

発表がメインだったものですから、ちょっとその辺はどんな、そこでやりとりがされたかというところはちょっと、不明です。

北澤教育委員：保育園の方でも、お正月明けからは、子供たちも年長さんはお昼寝をしないで学校の生活に合わせるような形で、1 日の流れにやっているんで、やっぱそういう面でも、でも学校でも最初から 1 日の流れを作ってくれるといいかなと、お話聞いてて感じました。

中村教育長：多分それぞれ個々の子供たちによって状況が違うかなと思うんですけど、やっぱりその辺をどんなふうにしていったらいいかっていうことを、お互いに情報交換するってのが大事かなと思います。

池田町の場合には、教育委員会が保育園の方も管轄してますので、その辺がすごくやりやすかったっていうのがあるかなあとは思っています。

今、大町の方でもちょうど保育園の再編が行われていますので、やっぱその辺のところを 1 つのきっかけにしながら、保育園、幼稚園と小学校、繋がりみたいな、少し場を設定できればなというふうには考えています。

奥原教育委員：今のことでよろしいですか。

1月から、お昼を寝ないで、保育園で過ごしているとか、そういう話あったんですけど、それは大町市全体で、保育園や幼稚園がそういうふうに取り組んでるかとか、すべての小学校がそういう情報交換をしてるのかってのは、その辺はどんな感じででしょうか。

中村教育長：今、大町では多分、きちんとした、そういう情報交換ってのは、多分やっていないと思います。

北澤教育委員：小保幼連絡会というのはあるんですよね。

中村教育長：あるんですけど、そういう園での子供たちの生活を掘り下げた話し合いっていうのは、多分なされてない。っていうのはなぜかって言えば今小学校は、ずっと以前からやってた形で、園の子ども達が上がってきたら、こういう形でのパターンでやるっていう、もうパターン化されたのをそのままやってるだけなんです。

その分科会にも高山校長先生もお見えになってましたので、特に南部小はあすなろとすぐ隣ですので、以前もあすなろとのいろんな連携はしていますが、そこからさらに1歩踏み込んだ形での保育園幼稚園、小学校の繋ぎの部分のところについて、深くお互いに意見交換したり、何かアクションを起こしてるかっていうと、そういう部分はまだまだできてないと思ってます。

奥原教育委員：以前から園児が小学校に入ったときとか、そういうところで、保育園でもっとこういうふうにして欲しいとか小学校でもこういうふうにして欲しいとか、そういうような意見の食い違いじゃないんですけど、そういうことがあるっていう話が今までの中でもあったと思うんですけど、何かそういう、池田でそういう実践が行われてるっていうのも何かこう、取り入れる余裕があれば、無理した改革っていうことよりも、何かそういうスムーズな連携っていうのが、何かできていけるといいなっていうふうな感想ですけど。

中村教育長：そう思います。無理に何か変えていくと多分摩擦が起きるので、やっぱりその辺は、お互いに思ってるところの、まずは、対話の部分から始めて、調整していくっていうことが必要なあとだと思います。

実際に今、小学校の1年2年生あたりで、学校への不適応を起こす子が、以前に比べたらやっぱりちょっと多くなってきたかなと思うし、いじめの問題をみても、低学年の方で、やっぱり叩いた蹴った、何かいろいろ言われたっていうことが多いので、そういう部分でも、保育園から、どうつないでいっていったっていう部分が、すごく課題であるかなというふうに思います。これは大町だけじゃなくて全国的な傾向だと思いますが。

奥原教育委員：課題が多いところで申し訳ないですけど、先ほど池田町は教育委員会が管轄でスムーズだったっていう、ご報告いただいたんですけど。

そこら辺は大町ではそういうふうには、大町とは違うというか。

中村教育長：今自分がスムーズだったって思ったのは、あくまでも自分の推測であって、多分、同じ部署の中でやってますので、会を開くにしても、ある意味で、出すところが1つです。会議を開きやすい、例えば園長会と校長会合同でやるっていうことも、やろうと思えばやれると思うんです。

でもなかなか今大町の場合には、子育て支援課と学校教育課があるのでその辺の調整とかいろんなことが、起こってしまうので、だから、スムーズにいかない部分もあるかなと思います。

北澤教育委員：はっきりしたことはあれなんですけど、多分、確か池川町って、それぞれの保育園が認定こども園を取ってるんじゃないかと思うんですよね。

そうすると、保育園なんだけど、幼稚園機能も含まれた認定こども園という形になってるので、それでやっぱ教育委員会が管轄するっていうことが、割とスムーズなのかなって私は感じてますけど。

中村教育長：山崎教育長に聞いたら、以前から保育園は教育委員会の管轄に入っていたと言っていました。

北澤教育委員：子供センターでしたっけ、生まれたときから一括してそこで全部、いろんなことを見ていくセンターがあるので、そういう兼ね合いもあるのかなってそういう部分もすごく大きく影響してるんじゃないかと思うんですけど。

ここだと、子育て支援課、保健センター、いろんなところにちょっと分散してるので、そういうふうには、この子の一生をっていうか、生まれたときから継続して、ここに行けばすべてわかるっていうところがないので。そういう部分の違いがあるかなと思います。

中村教育長：今、教育委員会との兼務職員も置くことで、その辺の連携を図っていくっていう形ではやっていますが、それはあくまでも、どちらかという、小学校に上がってからの子供たちの、いろいろな課題に対応するためのような機能になっていますので、その辺をちょっと、検討していきなきゃいけないかなというふうにも思います。

奥原教育委員：子供の人数が減っている段階なので、そういうところで何かそういう状況を取り入れて、より子供たちがスムーズに行くような組織とかそういうふうになっていけば、いいなっていうふうに感じてますけど。

中村教育長：ありがとうございます。

他に、小田委員、お願いします。

小田教育委員：教育長報告のあった、7月27日の南部小での振り返りなんですけど、北部小でも今回初めて、学校運営協議委員の方と先生の方と一緒にっていうので、参加させてもらって、先生たちの中からたくさん課題が、1学期の課題と、それから2学期に向けての振り返りで、子供たち落ちつきないよねとか、整理整頓をもっとこれからやっていかなきゃねっていうような意見が出てたんですけれども、まずどんな課題があったり、2学期に向けた、問題意識があったのかっていうのをお尋ねしたいです。

中村教育長：結構先生方が、自分たちの授業についての振り返りを言ってくれたんですよね。そこで、学校運営委員の皆さんがそれに対して、いろいろ、そこに、思いついていうか、そんなところをお話してくださったかなあと。

先生方からは、今、対話をメインにして授業やっていって、それはとても大事なことはわかるんだけど、でも毎時間毎時間、やっぱりそれに対する問いを考えていくことは、やはりなかなか厳しい部分があって、やっぱり教科書を使って教えることもどうしても多くなってくるっていう、本当に率直な授業づくりの悩みっていいですかね、そんなところも出ながら、話ができていたかなと思います。

小田教育委員：何か再編についての子供たちの様子とかは。

中村教育長：それはね、自分が見ていたグループではほとんど出なかったかな。吉澤先生、出てましたか。

吉澤学校教育指導主事：私のグループでも再編の課題的なことは出てなかったです。

前にお聞きしたときには元東小の子供たちも、全然違和感なく活動していて、どこに自分の地区の子どもがいるかわからないっていうことが、学校運営協議会には出ていましたけれど、主に課題になっていたのは、グループの話だったんですけれども、やはり子供たちの放課後の過ごし方で、常盤地区の独特の下校の居場所っていうのがあってそこが、これからどうしていったらいいかなっていうのはその学校も思っている部分ですし、運営協議会の皆さんもっていう部分であったかなと思います。

小田教育委員：あともう1つが、4月の定例会のときに、バスの乗車率についてまだ1ヶ月経ってないから出てなかったっていうことだったので、スクールバスの1学期の乗車率とか出ていましたら、状況がどんなところか教えていただきたいです。

渡邊学校教育課長：すいません今手元に詳細な資料ないのですが、全体の傾向としては全体では、乗車率が60%から70%程度だったと記憶しております。

やはり大町南部小学校の各ルートについては乗車率が高めである。

また新たに設定をした大町北部小の、野口コース、また、大新田をスタートする南コースは、乗車率は比較的高目であったというふうに認識しております。

一方、既存のルートであります、大町北部小の東ルート、いわゆる青木の方からのルート、それから、源汲からのルート、それから高瀬入からのルートについては、平均よりやや低目というような、1学期の分析結果だったというふうに認識しておるところでございます。

また、詳細な内容をお知りになりたいということがあれば、またこの後にでも、お示しできるようにしておりますので、お知らせいただければと思います。

小田教育委員：一番心配してたのが、低学年の子とかって、バスに間に合わなかった時ってどうするかとか、あとは、トイレ行きたいけど、トイレが近くになくなってどうするかなんて話も、保護者同士の中で出てたので、何かそのバスの乗車に関することで、課題とか問題とかあった感じですか。

渡邊学校教育課長：今のところはこちらの方に大きなトラブルというような報告はいただいておりません。

1点改善をした例を申し上げますと、大町南部小学校についてはご承知の通り発着場所が信濃常盤駅ということで、信濃常盤駅から学校までの道のりについては、学校の先生が送り迎えをしていただいているという状況で、安全確保していただいているような状況でございます。そういった中で、帰りの便でございますが、信濃常盤駅の前もそんなに広い道ではないことから、当初の時刻では、3つのバス、3ルートでバスを走らせているんですけども、児童の皆さんが乗り間違いをしないようにということで、5分刻みのバスの出発というような時刻を取らせていただいたところなんですけど、そうしましたところ学校の先生から、5分刻みだと要は、学校の先生がずっとついてる時間がその分延びてしまうと。

その部分はちょっと負担が大きいのので、出発の時刻を3台とも同一時刻にしてもらえないかというようなご要望があり、場所の確認、それからバス会社との協議の結果、別に同時刻の出発でも問題はないというお話をいただきましたので、バスの乗り間違いについては学校の先生もついていてということですので、一緒の時間で帰りの便は3便同時に出したというようなことで、先生方の負担、それから子供さんへの5分刻みというような負担もなく、スタートしてから改善ということで進めております。

また、1点ご報告いただいた中では、途中で、お腹が痛くなっちゃったお子さんがいたと。北部小学校ですけど、そういう場合は、たまたま海ノ口の駅にもバス停があったものですか、そこでちょっと一時的にバス停めて、その海ノ口の駅でトイレに行っていただいて、ま

たその後、出発したので若干帰りの時間が遅れましたというような、ご報告をいただきましたが、臨機応変に対応いただくということで、今のところ、そういった運行乗り間違え、降ろし忘れというのも含めて、トラブル等は聞いていないというような状況でございます。

小田教育委員：ありがとうございます。臨機応変に親切な対応をとっていただいて、ありがたいです。引き続きよろしくお願いします。

あと最後にもう 1 つ、先月の定例会でお話しさせていただいた放課後子ども教室、北部小の件もなんですけど、今日の午後当事者同士で打ち合わせということで、2 学期以降に進められそうな状況ですか。

本堂生涯学習課長：なるべく早くにできるようにしていきたいと思います。

中村教育長：今ちょっと話題にもなったんですが、子供たちの放課後の過ごし方っていうことについては、先ほどの南部小の子供たちが下校して、常盤公民館に行くと、そこでもう本当に、はじめてしまうような状態になってしまうということが言われてますし、私の耳に入ってくるのは、児童クラブでの、子供たち、特に夏休みでとても多くの子供たちが来てるんですけど、やっぱりその児童クラブに参加する子供たちの様子についても、とてもやっぱ指導員の方が、困ってる部分もあったりするっていうなお話を聞いています。

その辺についてもやはり、どんなふうに対応していったらいいかっていうようなところも話をしていけないといけないのかなということは、感じております。

別に子供たちを何かギュッと、コントロールして、言うこと聞かせる子たちにするとかっていうことではなくて、どういうふうに関わることで子供たちが、やはり自分で考えて、自分で行動ができる。そういうふうになっていけるかどうか、そのところは、やっぱりみんなの、それに関わる指導する大人たちで、やっぱり考えていかなきゃいけない。

そんなようなことは必要かなと思っています。

それでは、議事の方へ移りたいと思います。

最初に議案第 17 号令和 8 年度大町市一般会計補正予算第 3 号についてということで、お願いします。

降旗スポーツ課長：議案第 17 号 令和 8 年度大町市一般会計補正予算（第 3 号）について
スポーツ課所管事項 資料により説明

坂井山岳博物館館長：議案第 17 号 令和 8 年度大町市一般会計補正予算（第 3 号）について
山岳博物館所管事項 資料により説明

中村教育長：ご質問等ある方はいらっしょういますか。

〔発言 なし〕

中村教育長：よろしいでしょうか。それではこのような形で補正予算の方、お認めいただけますでしょうか。

〔全員 承認〕

中村教育長：ありがとうございます。

それでは３ページのところに、議決８月２１日とご記入の方お願いいたします。

では続きまして、議案第１８号、令和７年度大町市一般会計歳入歳出決算の承認についてということで、ご説明の方、お願いいたします。

渡邊学校教育課長：議案第１８号、令和７年度大町市一般会計歳入歳出決算の承認について
学校教育課所管分 資料により説明

本堂生涯学習課長：議案第１８号、令和７年度大町市一般会計歳入歳出決算の承認について
生涯学習課所管分 資料により説明

降旗スポーツ課長：議案第１８号、令和７年度大町市一般会計歳入歳出決算の承認について
スポーツ課所管分 資料により説明

飯島教育次長：議案第１８号、令和７年度大町市一般会計歳入歳出決算の承認について
国スポ・全障スポ推進室所管分 資料により説明

坂井山岳博物館館長：議案第１８号、令和７年度大町市一般会計歳入歳出決算の承認について
山岳博物館所管分 資料により説明

中村教育長：それぞれの課の説明をいただきましたが、委員の皆さん、ご質問ございますか。

奥原教育委員：学校再編とかあって、その教育に関する資料については、前年比の％とかはないのは、今までもそうだったのかちょっと自分、理解できてないんですけど。

その辺はなぜかということと、あとそれ以外の経費で、前年と同じように、予算計上していく、執行していくのがいいというふうに考えているわけではありませんが、すごく大きく変化しているところの理由について、何か特別なことがあったのか、例えば２００％、その増減があるとかそういうような理由について、何かもし特別説明していただくことがあればお

聞きしたいんですけど。

例えば生涯学習課の 7 ページ、286%になっているものとか、ちょっと見落としもあるかもしれませんが 18 ページの 204%になっているものとか、こういう違いっていうのは、例年起こることなのかどうなのかも、ちょっとあわせて聞きできればと思います。

渡邊学校教育課長：前年のパーセンテージにつきましては、必須の記載ではないという認識で、こちらの方載せておりません。

具体的に何が大幅な増減かというところは、ちょっと一目して、難しい部分もあろうかと思いますが、ちょっとピックアップして、大幅な増となったところを、ご説明させていただければと思いますけれども、一番令和 7 年度で大きかったのは、先ほどお話し申し上げました通り、学校再編に伴う旧第一中学校の整備事業でございます。

資料で言いますと、学校教育課の 7 ページとなっております。

小学校再編環境整備事業、こちらは、いわゆる再編に伴う費用ということで、こちら大幅な増となっているところが主なものとなっております。

大幅に伸びたというところは、一番はこの再編環境整備事業、ここが大幅な増となっており、過去と違うということでご理解いただければと思います。

本堂生涯学習課長：生涯学習課の 7 ページ。先ほど、ご指摘ありました、一般経費につきましては、令和 6 年度は、この経費につきましては、15,300 円となっております。

今回、推進本部委員報酬が 49,400 円あったということで、3 万円ほど増えたという部分が、200%になった理由となっております。

もともとの予算規模が小さかったんですけども、報酬が増えたということで、200%に達したということになっております。続いて、18 ページの文化会館の関係でございますけれども、こちらにつきましては、令和 6 年度については、予算、一般経費が 5900 万円ということになってございました。

令和 7 年度につきましては、19 ページに記載がありますけれども、文化会館の天井の LED 化がありましたので、そちらの事業費が 1 億 3600 万円ほどになってございます。

このことから増減が 200%超えたというふうになってございます。

降旗スポーツ課長：スポーツ課に関しましては、維持管理事業費が物価上昇等も影響を受けて、若干単価が上がったことによって、支出もその分の増ということでございます。

今後は、このコストダウン、見直しを図る上で、公共施設の全体のあり方も含めまして、施設総量のちょっと見直しも行って参りたいというふうに考えております。

中村教育長：他にご質問はありますか。

〔発言 なし〕

中村教育長：よろしいでしょうか。

それでは、議案第 18 号の令和 7 年度の一般会計歳入歳出決算についてご承認いただけるでしょうか。

〔全員 承認〕

中村教育長：ありがとうございました。

それでは、9 ページのところ、8 月 21 日、議決と書いていただきたいと思います。

それでは、議案第 19 号、大町市教職員住宅管理規則の一部を改正する規則制定についてということで、ご提案をよろしく願いいたします。

渡邊学校教育課長：議案第 19 号、大町市教職員住宅管理規則の一部を改正する規則制定について 資料により説明

中村教育長：何かご質問等ございますか。

現状、先生方が利用しなくなってきてるっていうことでございます。

小田教育委員：そういう先生たちってというのは、ご自分で好きな物件を探され、先生たちだけが住むところが嫌なのか、ただ単にこの施設がやっぱり古いからなのか。別のところ選んでも、補助はでるんですか。

中村教育長：県の方から出ます。

若い先生方は、あまり、直地元っていうよりは、ちょっと離れたところへっていうのはそんな、志向もあるかなっていうのは思います。

家族世帯の場合には、ちょっと違ってくる。幸町の住宅なんか、希望者が多いっていう状況もあります。

奥原教育委員：そういう教員住宅ってというのが本当に先生方の間でいろいろ話を聞いても、人気がないっていうか、結構、教員住宅はもう当てにしないみたいなこと聞くんですけど、こういうのってというのはその教員の配置とかそういうことへの影響とか、そういうことがないのかとか、今後も大町市では、教育住宅については、もう縮小する方向に、どんどんなっていくのか、今後の見通しもあれば、お聞きできないでしょうか。

中村教育長：現状から言いますと、自分がやってた頃、新しく、4 月に迎える先生と話をし

たときに、市とか町、村の教員住宅はありますかって、結構聞かれたんですよ。
でも、多分最近そういう話はほとんどないです、と言っても過言ではないかなと思います。
住宅はどうされますかって言えば、大体先生方は自分で探しますっていう回答が、結構今、
お若い先生方はそういう傾向かなというふうに思います。

渡邊学校教育課長：私のところで把握している内容といたしましては、先ほどご説明申し上げましたような生活形態の変化というものもあろうかと思いますが、昭和から平成の頃にかけては大町市に多くの教職員住宅がありましたが、その後、大町市でも、非常に民間のアパートが大分建ってきたということで、住宅環境が大町市としても、整ってきたということも要因の1つにあるのかなということ。

それから、道路もそのころから比べると整備をされてきたということで、例えば八坂小中学校に勤務される方で、長野市にお住まいの方は、通勤されてくるということで、多分その交通網の整備ということも、教職員住宅をあえて使わないというような理由の1つになっているのではないかと考えてございます。

こちらといたしまして、今、実績として動いているのが、幸町の教員住宅が12戸ございます。

また、実際はそこだけということで運用しておりますが、そこでも、現在、若干空きがあるというような状況になっておりまして、需要と供給のバランス的には、まだ比較的新しい幸町の教員住宅を維持管理して、受け入れ体制を整えていくとはいうことが、現状では適当なかなということと考えております。

奥原教育委員：今はそこだけになっているということですか。

渡邊学校教育課長：1つ落としてしまったんですけど、昨年度までは、法務局の横に民間のアパート、全棟借り上げということで、借りておりました教員住宅がございました。

こちらの方も先ほど申し上げましたように、需要と供給のバランスによりまして、あと契約期間、令和7年度で満了するということもありましたので、昨年度末で契約の方を満了して返還をしたというケースがございます。

ただ、そこにお住まいだった方については、引き続き住むかどうか、また別の場所に移るかどうかということを、意向を確認し、そのまま住み続けたいというご要望ある教職員の先生方は、優先的にそこに住めるというような手続きをした上で、返還をしたというような経過もございます。

そちらの方も全部借り上げていながら空いている部屋があるということで、ちょっと効率的ではないということで、契約満了とともに、返還をさせていただいたといった経過もございます。

奥原教育委員：先生方の確保に影響がないということがわかれば、わかりました。
ありがとうございました。

中村教育長：他にご質問等ございますか。

〔発言 なし〕

中村教育長：議案第 19 号ですが、大町教職員住宅管理規則の一部を改正する規則制定について、お認めいただけるでしょうか。

〔全員 承認〕

中村教育長：ありがとうございます。

では、64 ページ。8 月 21 日、議決ということで記入の方をお願いいたします。
続きまして、議案第 20 号、大町教育支援センターの設置要綱の一部を改正する要綱制定についてということで、ご提案をお願いします。

渡邊学校教育課長：議案第 20 号大町市教育支援センター設置要綱の一部を改正する要綱制定について 資料により説明

中村教育長：教育支援センター、新たに旧西小の方へ移転しました関係で、要綱の方の改正というような形になりますが、よろしいでしょうか。

〔全員 承認〕

中村教育長：ではお認めいただけるということで、68 ページ、8 月 21 日議決とご記入の方をお願いいたします。

以上で議事は終了になります。

あと協議事項の方、4 点ほどございますが、よろしくをお願いします。

最初に、令和 8 年度 1 学期におけます、児童生徒の長期欠席及び、いじめの状況と 2 学期の対応についてということで、山岸先生の方から説明をお願いいたします。

山岸学校教育指導主事：令和 8 年度 1 学期における児童生徒の長期欠席及びいじめ認知の状況と 2 学期の対応について 資料により説明

中村教育長：ご説明の方いただきましたが、何か質問、またご意見等ありましたらお願いい

たします。

小田教育委員：ちょうど7月末に保護者と先生との懇談が各学校で行なわれていると思うんですけども、うちも先生と懇談しまして、いじめがやっぱり何年も前と比べると、あからさまないじめって、やっぱり子供たちもこういういじめはだめだよっていう教育を受けてきてるので、パッと見ていじめってわかるような事例が少なくなってきたというか、気をつけるようになってきて、半面やっぱり、見えないところの、本当に先生たちがわからない、親もわかりづらいような、そういういじめもあったりする。あと、今、私の娘が6年生なんですけど、本当にSNSの使用ってというのが、ぐっと早まって、娘なんかも、T i k T o kでグループ作ってやりとりしてるんですね。

そうすると、こういうことはだめだよって、親としてやっぱり言うんですけど。

昔私たちの頃なんか交換日記とかやっていても、こっそり盗み見とかできるんですけど、もうやっぱりそういうT i k T o kのとかなってくると、どういうやりとりをやっているのかとかが、実際に、チェックもやっぱりできない状況になってきているので。前はそれが中学生や高校生だからやってたことも、結構高学年で、通信できる形態も、かなり渡してる親御さんも増えてきている状況なので、そういったところの見えないところのいじめが多くなってきてるっていうのもあって、実は減少傾向、先生たちが発見できないっていう部分もあるんじゃないかなっていうのは、この資料をいただいて感じました。

なので、そういうところも含めて、保護者、家庭の人にも、どういうところを見たらいいかの徹底とか、情報共有というか、ご指導なんかもしていただけると私たちもやっぱり初めて遭遇することで、上の子のときはこうだったのにこの子のときはこうなった、どうしたらいいのか、わからない部分があるので、ぜひそういったところなんかも、情報共有、ご指示いただけるとありがたいなと思ってます。

山岸学校教育指導主事：対応事例説明

中村教育長：対応事例説明

それとあと自分もたまたまポスター見てて、カスハラの関係、パワハラの関係で、からかいもパワハラですよ、ていう、そういうポスターが貼ってあったんですけど。

でもそれは今の大人に向けてるんですけど、要は子供のときから、例えばいじるとか、からかうとか、そういうことも、状況と場合によってはそれもいじめとして、認知される。

そして、認知されて、いじめというふうにもうなってしまう。

そういう可能性もあるんだということを、やっぱり、小学校中学校の段階でも、子供たちにきちっと指導もしなければいけないし、子供たちにもわかってもらう、そういうことが必要なんだろうなあということを思っています。

今回のいじめ認知件数少ないのは、1つはちょっとわからないんですけど、アンケートを1

学期末で、できてないんじゃないかなっていうこともちょっと予想されるんですね。

アンケートの調査から学校が発見したっていう件数がとても少ないので、多分それはないだろうなっていうことを思ってるので、特に市内の小中学校再編したところで、この 1 学期、なかなかそこまでの余裕もなく、きてる部分があるのかなとは、ちょっと思ってます。それは校長会でも確認したいかなと思っております。

山岸学校教育指導主事：1 点、いいことも話をしないといけないと思います。

すごくいい、この再編も含めましてね。

いろいろと先生方も手を打っていただいたり、気をかけてもらったことで、すごく好転したり、うまく繋がったりということで、市内の前学校よりも、うんと前に進んだお子さんが増えました。

それはとても私達もやっててありがたいことだし、生き生きと学校に行ったり、学校に居場所ができて、そこで自分のやりたいことも出来ているというような居場所作りができたが増えていて、それは本当にありがたいなと思っています。

ただ環境的な部分で、もっとホットスペースを広くしたいとか、いろいろとまだ課題はあるんですけども、今回のアルプスの家の移転も含めて、そういう場所ができていて、そこに通ってるお子さんが、自分でやりたいことが見つかって、今高校入試に向かって頑張ってる、中学生もいるんですけど、そういう姿を見ると、そういう場所をもとに、社会的自立に向かってって欲しいなんてことは、また 2 学期のはげみの糧としてやっていきたいなと思っています。

中村教育長：続きまして、それでは令和 8 年度の全国学力学習状況調査の結果についてご説明をお願いします。

吉澤学校教育指導主事：令和 8 年度全国学力学習状況調査の結果について 資料により説明

中村教育長：全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙の結果の比較について 資料により説明

中村教育長：以上、今年の全国学調の結果についてのご報告をいただきましたが、何か皆さん、ご質問やご意見ございましたらお願いいたします。

小田教育委員：私も学校運営委員をやっているせいなのかやっぱり全国平均を下回っているみたいな数字は時々目にしているんですけど。

教育長がおっしゃる通り、意欲がある生徒もたくさんいるし、対話式の授業っていうのは、

良い悪いっていうのが何か数字だけでとらえられて、対話式授業をやってるから低いんだ、ではなくてこういう数字ってやっぱり平均がどれだけいるかとか、平均を超える子がどれだけいるかで全然変わってくるから、数値って意外と、正しいようで正しくなかったっていう部分があって、保護者の中には全国より下回ってると大町の教育はだめだから、隣の松本までやっぱり塾に行かせてるっていう保護者の方も聞いたりとかをすることがあるので、何か数字だけが独り歩きしないように、細かいデータまでね、本当は公表するのは難しいかもしれないんですけど、ネガティブな情報とそのいい情報がセットになって、皆さんに伝わると、今のこのやってる方向性が間違ってることなんだっていうことかどうかは現段階ではわからないかもしれないんですけど。

うまくそこが伝わるといいんじゃないかなと思います。

中村教育長：ネットの方でも、例えば静岡、あと岩手の方も、市長レベルのところ、学調の成績が全国を下回っているから、もっと学力強化をしますっていうことを、打ち出してるところもあるんですけど、自分の方の考えとしては学力の数値っていうのは、あくまでも氷山の一角であって、その氷山の下にある部分で子供たちを支えてる部分ってのがものすごく大きいわけですね。

読むとか書くとか、感じるとか、ここで言ったら自分の考えを持ってそれを言うことができるとか。

やっぱりそういう力の部分の上での学力であるなあとしますので、ただ単に出てきてる正答率だけが、その子の本来の持っている資質能力の部分では、ないなというふうに思っています。

その辺教育委員会としても 1 つのやっぱり方向性は持ちながら、この今進めてることを、さらに推進していくような方向では考えていきたいなと思います。

ただ子供たちもできた、わかったっていうのはすごく、モチベーションになるので、その部分はやっぱり大事にしていかなければいけないなと思っています。

吉澤学校教育指導主事：この資料とほぼ同じものを、各学校と共有します。

なので、とてもいいことが子供たちの中に出ているんだよっていうことを、学校の先生たちがそこを認識しながら、次につなげていくっていうことが大事にしていきたいと思いますので、その点で、またお気づきの点があったら教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

中村教育長：他にご意見ありますか。

〔発言 なし〕

中村教育長：続きまして大町南部小学校の施設整備についてということで、お願いいたします。

渡邊学校教育課長：大町南部小学校の施設整備について 資料により説明

中村教育長：この件について何かご質問、ございますか。

〔発言 なし〕

中村教育長：では最後に、大町市社会福祉審議会委員の推薦についてということでお願いします。

西澤学校教育庶務係長：大町市社会福祉審議会委員の推薦について 資料により説明

中村教育長：社会福祉審議会委員の方ですが、どうでしょうか。

下川教育長職務代理者：私でよろしければ、引き続き受けます。

これは職務代理者の当て職っていうよりも、教育委員の私の担当する審議会委員の位置付けです。念のために言っておきますが。ずっとやってきてますんで、引き続きやらさせていただきます。

中村教育長：下川委員の方で引き受けていただけるということで、よろしくお願いします。続いて連絡事項の方、お願いします。

西澤学校教育庶務係長：連絡事項 資料により説明

中村教育長：他にはよろしいでしょうか。

山岸学校教育指導主事：委員の皆さんの机上に立川市との中学生サミットの報告書が出来上がりましたので、置かさせていただきました。

子供たちの振り返りが載っております。全生徒になります。

また写真でどんな様子だったかも見ていただけたと思いますので、また時間あったら、ご一読いただければありがたいと思います。

中村教育長：それでは以上をもちまして、第 8 回教育委員会の方を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

《午前11時58分 終了》